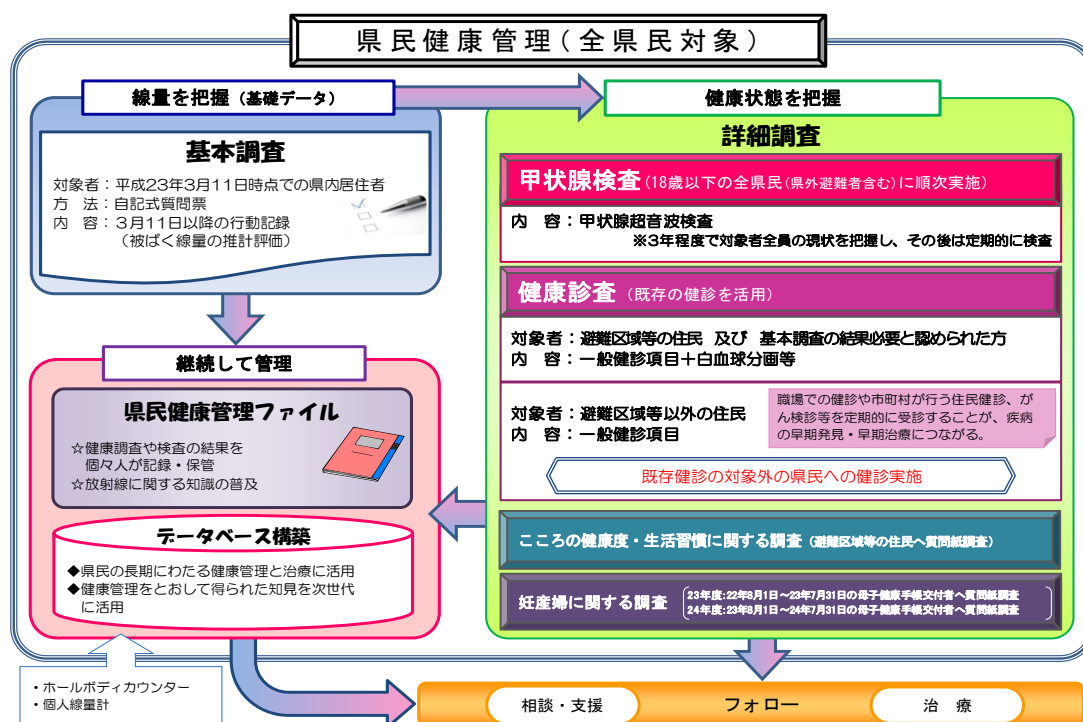


派遣先所属 福島県 県民健康調査課  
 氏 名 松村 剛政 (まつむら たかまさ)  
 派遣期間 平成25年4月1日～平成27年3月31日

### 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の県民健康調査課では、主に「県民健康調査」に関する業務を行っています。これは、東日本大震災やその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故により、多くの県民の皆さんが健康に不安を抱えている状況を踏まえ、長期にわたり県民の皆さんの健康を見守り、将来にわたる健康増進につなげていくための事業です。(下図参照)



担当業務はホールボディカウンター検査(以下WBC検査)、県民健康管理ファイルの作製・交付等で、特にWBC検査について、福島県の職員や沖縄県からの派遣職員と一緒にしています。

WBC検査というのは、人の体内に取り込まれた放射性物質(放射性セシウム等)の量を測定し、内部被ばくを評価する検査です。(レントゲンのようにX線を体に当てて行う検査ではないので、WBC検査によって被ばくすることはありません。)

私は、このWBC検査の中でも県外への避難者・転出者に向けた県外検査の企画・調整や委託契約を主に行っております。

福島県が実施する県外におけるWBC検査は、大きく分けて2つに分かれ、1つは、広島大学病院等の検査機器を保有している機関で検査を委託している場合、もう一つは、車載型の検査機器を一定期間派遣し、福島県からの避難者がいる都道府県に協力頂いて実施している場合があります。派遣先の県と日程や検査会場を調整するのですが、その際、検査車の特殊性により通行できる

道や駐車場所が限られるため、会場の確保と受検者の利便性の両立に苦心しております。

平成25年3月から県外への派遣を始め、10月31日現在、23県で実施しています。

福岡県、熊本県での実施も決定しており、今後は九州圏を中心に検査実施の拡大を図っていきたいです。

「県民健康管理調査」は、現在の福島県で最も重要な事業の1つですので、今後も少しでも福島県の皆様のお役にたてるよう努めていきたいと思っております。



## 2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

私が現在住んでいる福島市においては、被災地ではございますが、内陸のため、津波の爪痕等はないので、目に見える被害と言えば道路が多少波打っている場所がある程度で大きく生活に影響が出ていることはないかと思えます。

もちろん、原発による目に見えない不安はございますが、ニュースや新聞、それから業務を通じ、正しい情報が埼玉県に住んでいる時よりもたくさん入ってくるため、生活に不安はさほどございません。

しかし、この問題が復興の妨げになっていることも事実だと思えます。

また、実際に東北において生活を送る中で感じることは、全体的に情が深い方が多いと感じ、またその優しさにとっても助けられております。

1年を過ごした福島県の街としての印象ですが、福島わらじ祭りや須賀川市の釈迦堂川花火大会等を見させて頂きました。

どちらも、地元の方達の伝統への敬意を感じ、素晴らしい雰囲気を生み出していました。

目に見える被害についてですが、やはり東北圏の沿岸部は津波の影響をとっても感じます。

私（松村）は趣味でサーフィンをしますが、いわき市のサーフポイントの目の前は、家の土台のみが残っているようなところがございます。

また、南相馬市や宮城県仙台市、石巻市等においても、同様のことが言え、悲しい被災痕を感じます。

そんな中ですが、人が戻り始めている地域もあり、少しずつ賑わいを取り戻してきていると思えます。

その一つの象徴として、東北圏でのサーフィンの大会が徐々に増えていると思います。

元々、東北圏の海はとても綺麗で素晴らしいポイントがたくさんある地域です。

その中でも、有名なポイントの一つの仙台新港では、アマチュアの年間総合優勝を決める大会が10月末に行われます。

それから、福島県北泉海岸（南相馬市）では、全日本スタンドアップサーフィン東北支部予選が9月に行われるなど、ローカルサーファーが中心となり、地元行政や住民の方々から理解を得て活動しています。

また、海から山へ目を移すとそこには、大自然を感じる、悠々とした山を見ることができます。

東北には、素晴らしい自然があり、そしてこれから始まるウィンタースポーツは、関東では得られない体験ができます。

地元福島のプロスノーボーダーが案内するトレッキングツアーなどは、その醍醐味の一つではないでしょうか。

街・海・山、どれについても、まだまだ震災前と同様の状況ではないと思いますが、それぞれの地域で一体感を持ち、何よりエネルギーを感じる活動していると思います。

私も、派遣職員として仕事はもちろんです、一人の福島県民（東北圏人）として、少しでも多くの地元の方とコミュニケーションをとり、この地域に根付いていきたいと思っています。



福島市わらじ祭

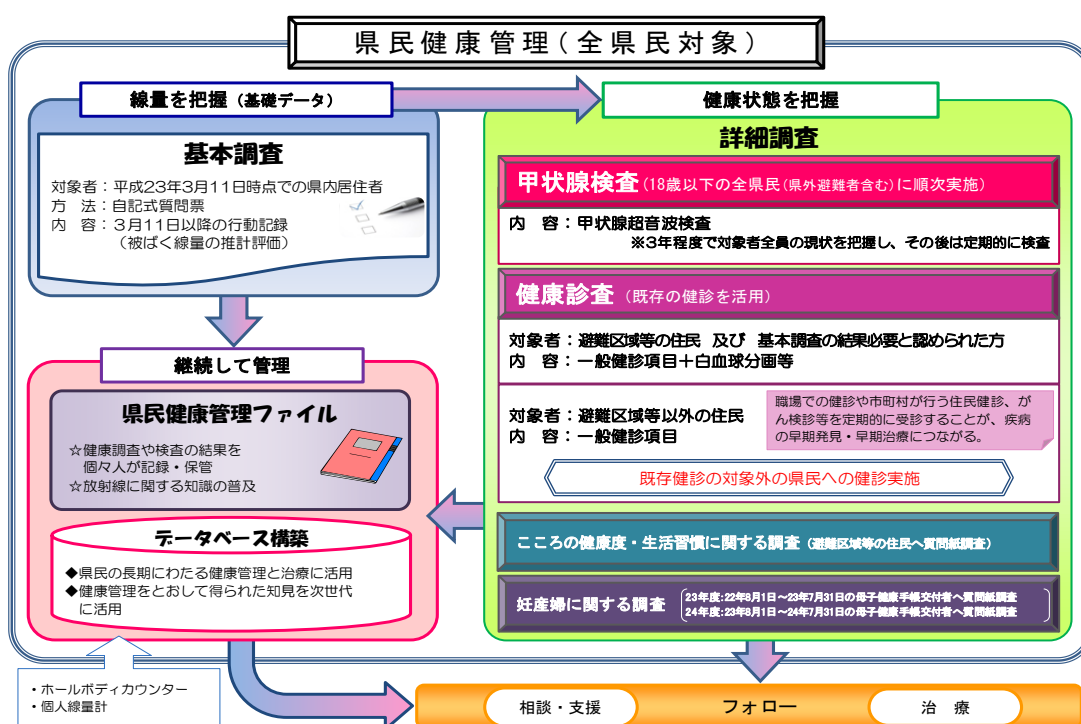


石巻市の夕陽

派遣先所属 福島県 県民健康調査課  
 氏 名 工藤 旬生 (くどう じゅんき)  
 派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の県民健康調査課では、主に「県民健康調査」に関する業務を行っています。これは、東日本大震災やその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故により、多くの県民の皆さんが健康に不安を抱えている状況を踏まえ、長期にわたり県民の皆さんの健康を見守り、将来にわたる健康増進につなげていくための事業です。(下図参照)



担当業務はホールボディカウンター検査（以下 WBC 検査）、県民健康管理ファイルの作製・交付等で、そのほかに甲状腺検査の委託や医療や統計など各専門家による検討委員会の実施などがあります。

WBC 検査というのは、人の体内に取り込まれた放射性物質（放射性セシウム等）の量を測定し、内部被ばくを評価する検査です。（レントゲンのように X 線を体に当てて行う検査ではないので、WBC 検査によって被ばくすることはありません。）

私は、県民健康管理ファイルの作成・交付事業を主に担当しております。

県民健康管理ファイルとは、「家庭用カルテ」として、県民一人一人が自身の健康に関する様々な調査や検査結果をまとめて記録・保管できるものです。

A4 サイズで、自身の健康状態や検査結果を記録できるページと、放射線に関する基礎知識や東日本大震災の記録などがイラストや図で分かりやすくまとめられた資料のほか、検査結果など

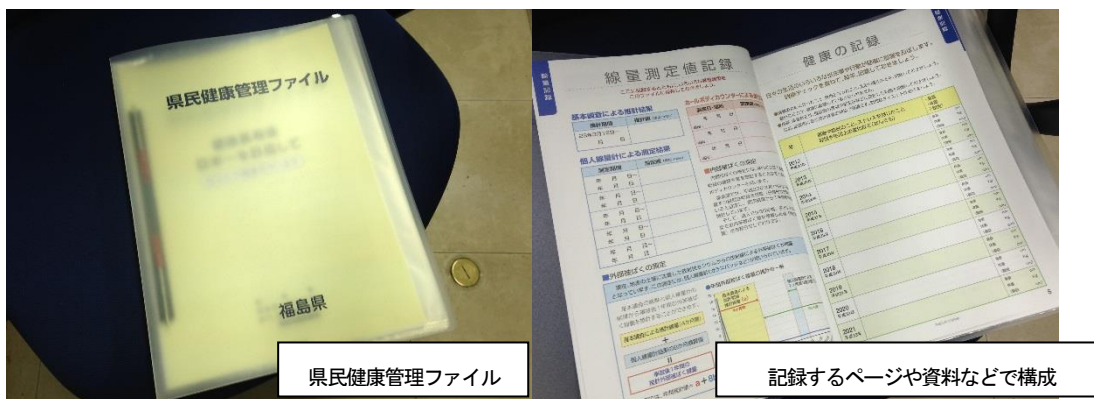
を入れて保管するためのクリアファイルがあります。

これまでに、福島県が行う基本調査に回答され、その結果が出た方や、甲状腺検査対象者等に送付されています。

しかし、ファイルの活用については浸透し切っていないため、今年度は市町村の協力を得て、活用のための説明会を開催しました。

説明会に参加した方からは、具体的な活用法を聞いたのでこれからきちんと使いたいというお声をいただき、また、市町村担当者からもぜひ継続してほしいとの意見があり、今後は説明会の機会を増やすなど、事業の趣旨を理解していただくことが課題となっております。

県民健康管理ファイルの作成・交付事業は「県民健康調査」の一環として行われており、この「県民健康調査」は現在の福島県で最も重要な事業の1つですので、今後も少しでも福島県の皆様のお役にたてるよう努めていきたいと思っております。



## 2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

私が現在住んでいる福島市においては、被災地ではございますが、内陸のため、津波の爪痕等はないので、目に見える被害と言えば道路が多少波打っている場所がある程度で大きく生活に影響が出ていることはないかと思えます。

もちろん、原発による目に見えない不安はございますが、ニュースや新聞、それから業務を通じ、正しい情報が埼玉県に住んでいる時よりもたくさん入ってくるため、生活に不安はさほどございません。

しかし、この問題が復興の妨げになっていることも事実だと思います。

また、実際に東北において生活を送る中で感じることは、全体的に情が深い方が多いと感じ、またその優しさにとっても助けられています。

約半年を過ごした福島県としての印象ですが、磐梯山や猪苗代湖をはじめとする自然豊かな郷土であり、県土を縦に区切った浜通り・中通り・会津地方ごとに伝統や食文化が異なるなど、大変興味深いと感じております。

福島の三大提灯祭りのひとつ白河提灯祭りや、日本三大喧嘩祭りとされる飯坂温泉の飯坂けん

か祭りなど、各地に歴史のある祭事が多く、どれも地元の方が伝統を継承され、活気ある素晴らしいものでした。

休日は各地をドライブすることが多く、福島市内から1時間ほどで行ける浄土平は、火山性ガスが噴出し、一面がわずかな植物と石ばかりの火山地帯で、その特異な景観もあって定番のスポットとなっています。

会津地方はご当地グルメや鶴ヶ城、白虎隊士の墓など歴史的スポットが多く、地理的に福島第一原発から遠いこともあり、震災以前のような活気が戻りつつあるなど感じられます。

一方で、海沿いに足を運ぶと、津波により受けた被害が現在も色濃く残っており、基礎のみを残した集落や、大きく損壊したままの道路など、東日本大震災が未曾有の災害であったことがよく分かります。

過去に避難地域に指定されていて、現在は人の出入りが可能となった地域でも、補修や除染といった作業が日々行われており、今なお多くの課題が山積している状況です。

街・海・山、どれについても、まだまだ震災前と同様の状況ではないと思いますが、それぞれの地域で一体感を持ち、何よりエネルギーを感じる活動をしていると思います。

私も、派遣職員として仕事はもちろんですが、一人の福島県民（東北圏人）として、少しでも多くの地元の方とコミュニケーションをとり、この地域に根付いていきたいと思っています。

